

令和5年度 ふるさと納税寄付金活用事業のご報告

寄付者の方から使い道を指定して福井県にいただいたふるさと納税は、以下の事業に活用させていただきました。

応援型
NPO
法人

令和5年4月から令和6年3月までに使い道を指定していただいた寄付

件数

3,185件

金額

102,458,501円

01

ふるさとの母校を応援

寄付金額

6,663千円

- 福井県内の各高校で学ぶ後輩を応援するため、寄付額の4/5は指定先の高校へ、残りの1/5は返還の必要のない県全体の給付型奨学金制度「きぼう応援奨学金」に活用しました。
- 高校では、生徒たちの学習に必要な物品の購入やスポーツ用具等の購入、ICT機器の整備等に活用しました。
- 令和4年度より、各学校があらかじめ指定したプロジェクトに対し、クラウドファンディング形式で支援を募る「プロジェクト型母校応援」を開始し、令和5年度は2校が活用しました。



【寄付金を活用し購入した黒板】

02

高校生の長期海外留学を応援

寄付金額

10,212千円

- 高校生のきぼう実現を応援し、国際社会で活躍できる人材を育成するため、平成28年度から高校生の長期留学に対する返済不要の奨学金制度を設け、皆様からいただいた寄付金を財源に1年以上の留学に対して奨学金を給付しています。
- 令和5年度は、アメリカ、カナダ、イギリスに留学する高校生4名を奨学生として採用し、約2,000万円の奨学金を給付しました。



【奨学生が留学するUNITED WORLD COLLEGESの学生】

03

若狭高校の寮整備を応援

寄付金額

400千円

- 若狭高校は、文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクールの指定を受け、様々な課題研究に取り組むとともに、本校開発の「サバ缶」の宇宙食認定など高い評価を受けています。
- 老朽化の著しい本校の寮を新たに整備し、生徒が安心して学校生活を送ることができる住環境を整え、より一層の魅力向上に取り組めます。
- 令和5年度に新若狭寮を完成し、8月に開寮式を行いました。



【完成した新若狭寮】

04

経済的理由で就学が困難な高校生を応援

寄付金額

4,594千円

- 学習や部活動に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、経済的理由で就学が困難な高校生を応援するため、返還の必要がない奨学金制度を設け、みなさまからいただいた寄付金を財源に奨学金を給付しています。
- 令和5年度は延べ46名の高校生に奨学金を給付しました。



05

ふくいの大学生を応援

寄付金額

37,563千円

- 福井県内の各大学で学ぶ後輩を応援するため、寄付額の4/5は指定先の大学等へ、残りの1/5は「大学連携センター（Fスクエア）」の運営に活用しました。
- Fスクエアは、共通のサテライトキャンパスとして、ふくいの魅力を学ぶ講義や、大学間の垣根を越えた交流活動を行いました。



【Fスクエアでの活動】

06

次世代を担う理系高校生を応援

寄付金額

70千円

- 理系の人材を育成するため「ふくいGirls未来のテックリーダー」プロジェクトを実施し、女子高校生32名が参加しました。
- 参加者は、首都圏のグローバルIT企業訪問、女性技術者とのキャリアアトック、プログラミング研修、データサイエンス研修を受講し、自分の可能性や社会課題に新たな視点を見出していました。
- 理系分野の課題を研究する高校生を対象に研究費支援募集を行い、今年度は8名（グループ）が採択されました。



【プログラミング研修】

07

地域鉄道を応援

寄付金額

840千円

- 令和5年度は、福井鉄道福武線の観光列車としても活用されるフクラムライナーおよびレトラムの顔出しパネルを作成し、鉄道イベントなどで活用しました。
- えちぜん鉄道では、新たなオリジナルノベルティグッズを制作・配布し、イベントの集客力をあげ、鉄道利用者の増加を図りました。



【フクラムライナー顔出しパネル】

08

福井県立恐竜博物館の魅力向上応援

寄付金額

574千円

- 令和5年度は、第2次発掘調査以降発見されていたオルトミモサウルス類の化石が新属新種であることが明らかになり、福井県として6種目、日本では11種目の新種恐竜「ティラノミムス・フクイエンス」として発表しました。
- また、1月6日には、開館以来の通算来館者数が1,300万人を突破しました。
- 令和5年7月14日にリニューアルオープンし、年間来館者数が過去最大であった平成30年度の同期間と比較して約14%増加と、過去最高のペースで来館者数が増加しました。



